

令和4年4月15日

海ごみから革新的な社会を考える会

代表 小木曾 順務

各位

### 帆船カップの由来

戦後、生産された陶磁器の裏底に「Made in Occupied Japan」または「Occupied Japan」といった裏印が付けられている製品があります。

何故 Occupied (占領下) といった文字が付けられたのでしょうか。

昭和22年2月、日本から輸出するものに「Made in Occupied Japan」を表示することが義務付けられました。なお、米国、カナダ、オーストラリアなどでは輸入品に原産国を表示することを法律で義務づけており、講和条約発効後も日本からそれらの国に輸出する場合は「Made in Japan」または「Japan」を必ず表示するようになりました。

戦後の西欧諸国では磁器素材は高価であり、重量関税が上乗せされた経緯もあり当時地元産地では薄い磁器製食器を量産するという技法が根付きました。戦後の外貨獲得に貢献してきた伝統ある陶磁器産業が生んだ「極めて薄い磁器製食器づくり」の技術を活かした帆船カップです。帆船模様だけは3D技術で凸面に仕上げ、帆だけはマット調に仕上げし、カップ内面には、国際信号旗で「WELCOME TO JAPAN」を載せ、イングレース技法(安心・安全な食器づくり)で絵付けを施しています。

カップの底には透かし技法で「帆船模様」を施し、飲み干した折には、くっきり模様が見えますが、未だエコマーク商品ではありません。ホテルなどで不要となった管理された食器の欠けを回収し、15%配合させることでエコマークが付きます。あなたの施設のオリジナル、つくってみませんか。

なお、昭和の時代に入り、どれほどの若者たちが海に憧れ、「海国・日本」を思い、商船学校に入学し、練習船「日本丸」と姉妹船「海王丸」で「雄飛五大洋」を周ってきたことでしょうか。海ごみから革新的な社会を考える会に参加する方々には、ぜひ、お使い頂きたいです。

研究会 p-ogiso へのご支援を宜しく申し上げます。

以上



口径8cm・高さ11cm・70g

